

2 海外都市行政視察 総括

団 長 丹生谷 利和

平成23年10月21日、平成23年度松山市議会議員海外都市行政視察団が結成され、同日、団長、副団長の選任のほか、前年度、各派代表者会議から申し送られた検討事項を基に実施された経費の縮減、成果報告の充実について協議の上、視察先、視察内容等を慎重審議した。そこで、視察旅費については、昨年度と同様に予算額から事前に一定額を減額することとし、視察先は、本年度は、サクラメント姉妹都市提携30周年を迎え、7月には市長、議長等の公式訪問団が同市を訪問し交流を深めてきたが、議会においては、震災のため海外都市行政視察を当面の間中止としていたため、議員団としては、この公式行事に参加できなかったことから、サクラメント市とその周辺都市と決定した。

10月24日、第2回打合せ会を開催し、調査研究テーマを、「姉妹都市交流」「観光資源活用」「環境対策」「農業関連（TPP）」「動物愛護の取り組み」「スポーツ振興」とし、視察日程は、平成24年1月31日から2月8日までの9日間と決定した。

11月18日開催の第3回打合せ会では、3業者から提案された4つの企画書を慎重審査した結果、(株)フジトラベルサービスの企画提案を採用し、同月28日、第1回勉強会において、フジトラベルサービスによる内容説明及びサクラメント市との姉妹都市交流の現状等について、担当課から説明を受けた。そして、12月13日には、姉妹校交流の一環として、さくら小学校で実施されたサクラメント市マツヤ



(勉強会)

マ小学校とのビデオチャットによる交流会の様子を視察した。

第2回、第3回勉強会では、研修テーマである「動物愛護の取り組み」「観光資源活用」「環境対策」「スポーツ振興」「農業関連（TPP）」について、本市の現状等の説明を受けるとともに、調査要望等を受けた。

12月定例会最終日、12月21日には本会議において派遣承認を受け、本年1月25日、最終打ち合わせ会を開催し、同月31日、松山空港において、議長出席の下、出発式を挙げる。最初の訪問地であるサクラメント市に向け出発した。

現地時間1月31日、午前9時30分（日本時間2月1日 午前2時30分）、サンフランシスコ国際空港に到着。松山を31日の午後に出発し、到着が同日の午前という日付変更線による時差を痛感した。サンフランシスコ国際空港では、現地ガイドの東さんの出迎えを受け、一路、サクラメント市へ向け出発。サクラメントまでフリーウェイを約3時間かけて移動したが、コンクリート製の道路は、日本のアスファルトで整備された道路とは違い、その状態の悪さからバスを突き上げるような衝撃が絶え間なく続いた。

サクラメント市到着後、ゴールドラッシュ時代の様子を再現した「サター砦」を視察した。偶然にも、サンフランシスコ郊外の小学生が、その保護者と先生とともに一泊二日の体験学習にきており、児童や保護者から貴重なお話を聞くことができた。

2月1日 ホテルで、松山サクラメント姉妹都市協会のカオル・フッカー第



（ケビン・ジョンソン市長：中央）

2副会長及びビル・タキガワ氏の出迎えを受け、サクラメント市庁舎を訪問した。歴史を感じさせる旧庁舎と近代的な新庁舎があり、セキュリティチェックを受けて入庁となった。新庁舎内の議場や記者会見場を見学していると、急遽、予定にはなかったケビン・ジョンソン市長と面会ができることにな

り、市長のプライベート図書室に案内された。短い時間ではあったが、訪問のあいさつを行い、ケビン・ジョンソン市長と歓談できたことを大変うれしく思う。その後、サクラメント市議会のスティーブ・コーン議員及びダレル・フォン議員と面会し、同市の現状や課題等を伺うなど、意見交換を行った。松山サクラメント姉妹都市協会との昼食会では、ラルフ・スギモト会長を初めとする6名の方々と歓談を行い、交流を深めることができた。

午後からは、マツヤマ小学校を訪問し、6年生と4年生の教室をそれぞれ訪問し、子供たちと一緒に鶴を折りながら交流をした。持参の完成した鶴をプレゼントすると大変喜んでおり、短い時間ではあったが、大変有意義な時間が過ごせたと思う。



(マツヤマ小学校6年生との交流)

2月2日 サクラメント観光局を訪問。マイケル・R・テスター副社長から、観光局の機能や役割について説明を受けた。年間1,500万人もの訪問客は、そのほとんどがビジネス客であり、観光客はごくわずかとのことで、本市との誘客対象者の違いが顕著であった。説明の後、12,000人を収容できるホールがあるコンベンションセンターに移動し、ジュディス・M・ゴールドバー部長から、施設内の案内を受けながら同センターの概要説明を受けた。このセンターは、大人数から少人数までさまざまな規模のイベントに活用することができ、この日も二つの会場でイベントの準備が進められていた。

午後からは、サクラメント電力公社を訪問し、ビル・スレイター副理事長及びヴァレンチノ・ティアンゴ主席プロジェクトマネージャーから、環境対策についての説明を受けた。電力公社では、再生エネルギーや二酸化炭素の排出量が少ないクリーンエネルギーに力を入れており、今後はバイオマスの研究を進め、環境に配慮した安価で安定的な電力供給に努めていた。

視察終了後、サクラメントから空路、ロサンゼルスへ移動した。

2月3日 有名なディビット・ベッカム選手が所属するメジャーリーグサッ

カー、ロサンゼルス・ギャラクシーのホームスタジアムがあるホーム・デポ・センターを視察した。同センターはサッカー場のほかにテニスコートや室内競輪場等々多数のスポーツ施設を備えており、アメリカのオリンピックトレーニング場に指定されるなど、全米で最も完備されたトレーニングセンターであった。

午後からは、ロサンゼルス SPCA（動物虐待防止協会）を訪問し、動物愛護の取り組みについて、視察した。SPCAは、約130年の歴史を持ち、予算規模は1,080万ドル（約14億円）で、すべて寄附や遺贈、補助金で賄われており、税金による助成は一切受けていない。主な事業は、里親との縁組みであり、約160人の職員と2,400名のボランティア（日本人のボランティアも見かけた）により運営されていた。

SPCA視察後、UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）のキャンパスを見学し、その敷地の広大さと学生の多さに驚きを覚えた。

2月4日 南カリフォルニアにあるマグラス・ファミリー農場を視察。農場主のフィルさんから農場の歴史やその取り組みについて、直接お話しを伺った。この農場は、1968年から5世代続くアイルランド系アメリカ人の農家で、再生可能な有機農業（果物と野菜）を営んでおり、この有機農業に関して30年以上にわたり、学校や視察団体に対して研修ツアーを行っていた。



（ゴールデン・ゲート・ブリッジ）

2月5日 ロサンゼルスから空路、サンフランシスコへ移動。サンフランシスコの観光名所であるツインピークスとゴールデン・ゲート・ブリッジ（金門橋）を視察。

ツインピークスは、サンフランシスコ市街地を南から北方向に向けて一望できる標高274メートルの展望公園で、ユニオンスクエア方

向の摩天楼、その昔、刑務所であったアルカトラズ島、ゴールデン・ゲート・ブリッジなどが望める。また、サンフランシスコと対岸のマリン・カウンティを

結ぶゴールデン・ゲート・ブリッジは、1937年（昭和12年）に完成した全長2,737メートルのつり橋である。完成以来、インターナショナル・オレンジ（鮮やかな朱色）という独特の色で、6車線の道路と歩道を有するサンフランシスコの象徴である。瀬戸大橋と姉妹橋関係を結んでおり、その記念碑を目にすることができた。

2月6日 サンフランシスコ市内から東へ約300キロ、車で約4時間、ヨセミテ国立公園を視察した。この公園は、アメリカで最も人気の高い公園の一つであり、シエラ・ネバダ山脈の中央に位置し、公園の面積は3,000平方キロメートル以上あり、氷河の浸食によってできた巨大な岩峰と無数の滝と溪流、セコイアなど巨木の森が見事に溶け合っただけでなく、絶景を作り出していた。

2月7日 現地時間 午前11時10分発、全日空NH007便でサンフランシスコ国際空港を飛び立ち、帰国の途についた。

2月8日 午後3時25分、約11時間の飛行時間を経て、成田国際空港に着陸。羽田空港へ移動後、松山空港には午後8時55分着の予定であったが、少し遅れて到着。

旅行団員の協力により、全行程中、大きな問題もなく無事全日程を終えたことをまず喜ぶたい。

また、今回の視察の所期の目的を達成することができたのも、一重に丁寧に対応していただいた各視察先の皆様のおかげであり、派遣団を代表して深く感謝申し上げますとともに、今後は、この視察・研修の成果が市政に反映され、市民福祉の向上につながることを心から願い、私からの視察の総括とする。



（於 ケビン・ジョンソン市長のプライベート図書室 丹生谷団長）